

NEC Express5800シリーズ Express5800/120Bb-6

3

ソフトウェア編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

「添付のDVDについて」(166ページ)

本体に添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに収められているソフトウェアについて紹介します。

「EXPRESSBUILDER」(168ページ)

セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。

「ExpressPicnic」(172ページ)

シームレスセットアップ用パラメータファイルを作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。

「本体用バンドルソフトウェア」(181ページ)

本装置にインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

「管理PC用バンドルソフトウェア」(186ページ)

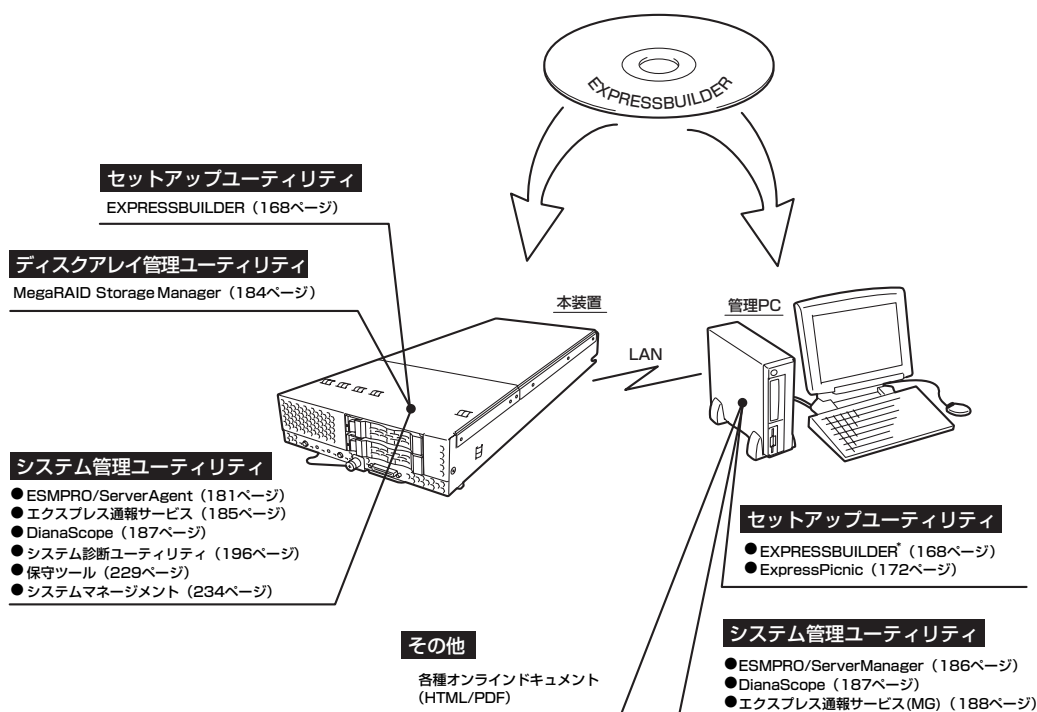
本体を監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

添付のDVDについて

添付の「EXPRESSBUILDER®」DVDには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。



「EXPRESSBUILDER」DVDは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用する機会があります。紛失しないように大切に保存しておいてください。



* コンソールレスで操作する場合。COMポートも使用可能。

CD-ROM装置のみの管理PCを使用したいとき

EXPRESSBUILDERはDVDメディアにて提供しているため、DVDメディアが読み込める装置のあるコンピュータでないと各種ソフトウェアのインストールをすることができません。CD-ROM装置のみのクライアントマシンへソフトウェアをインストールしたい場合は、次のような手順にて、いったんCD-R等へコピーしてから使用してください。



本手順は、クライアントへソフトウェアをインストールする目的に限り、CD 1枚分のみコピーすることができます。

1. 本装置など、DVDメディアが読み込める装置へ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
2. オートランメニューが起動した場合は終了させる。
3. エクスプローラから、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納された以下のファイル・フォルダをハードディスクドライブへコピーする。

¥(ルートフォルダ)

```

|
+---- ¥001 : version.xmlをコピー
|
|   +---- ¥ar_menu 以下すべて
|   |
|   +---- ¥doc以下すべて
|   |
|   +---- ¥win以下すべて

```

4. 手順3にてコピーしたファイル・フォルダをそのままのフォルダ構造にてCD-Rへコピーする。
コピーするときは、ルートフォルダを一致させてください。
5. CD-Rへのコピーが完了したら、手順3にてコピーしたハードディスクドライブ上のファイル・フォルダはすべて削除する。
6. 手順4で作成したCD-RをクライアントマシンのCD-ROM装置へセットする。
7. エクスプローラから、CD内の以下のファイルを実行する。

¥001¥ar_menu¥autorun_menu.exe (32bitエディションの場合)
autorun_menu_x64.exe (64bitエディションの場合)

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、OSのインストール、装置のメンテナンスなどをするためのソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ（またはRAIDシステムの論理ドライブ1台のみ）だけを接続してセットアップしてください。

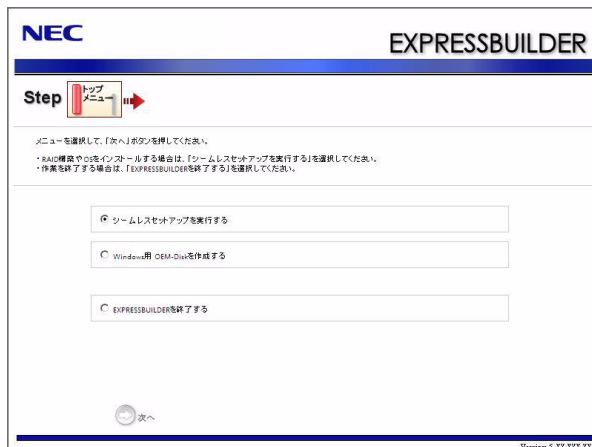
各メニューの起動について

「EXPRESSBUILDER」DVDを本装置の光ディスクドライブにセットして起動すると、以下のようなメニューが起動します。

BOOT Selection	
OS installation***default***.....①	
Tool menu(Normal mode).....②	
Tool menu(Redirection mode).....③	

① OS installation

本項目を選択すると、EXPRESSBUILDERトップメニューが表示されます。



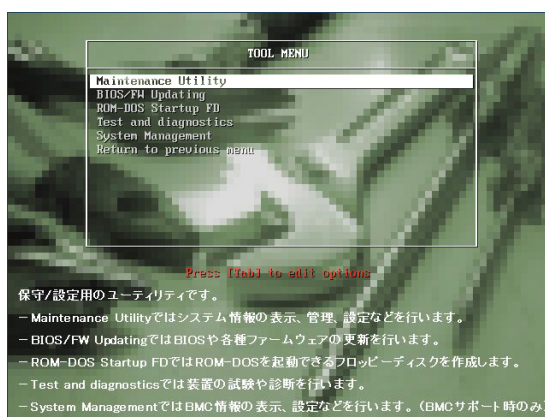
- 本ツールは Configuration Toolであり、Windows PE 2.0を使用しています。72時間継続して使用すると自動的に再起動されますのでご注意ください。
- Windows PE 2.0を使用したConfigurationは、Windows Server 2003 (32bit)および Windows Vista Business (32-bit(x86))のみをサポートしており、それ以外の動作は保証しておりません。

このメニューから、OSインストールのための「シームレスセットアップ」(導入編参照)や、以下のような機能を起動することができます。

- a) Windows用OEM-Diskを作成する
Windowsのローカルインストールで必要となるOEM-Diskを作成します(導入編-ローカルインストール参照)。
- b) RAIDのコンフィグレーション情報をセーブ/ロードする
アレイボード上のRAIDコンフィグレーション情報を保存したり、復元したりすることができます。
- c) EXPRESSBUILDERにドライバをロードする
通常は使用しません。オプション製品を追加した場合に使うことがあります(導入編-応用セットアップ参照)。

② Tool menu (Normal mode)

本項目を選択すると、表示言語の選択の後、ツールメニューが起動します。



このメニューから、以下のような保守用の機能を起動することができます。各機能の詳細については、運用・保守編の保守ツールの章を参照してください。

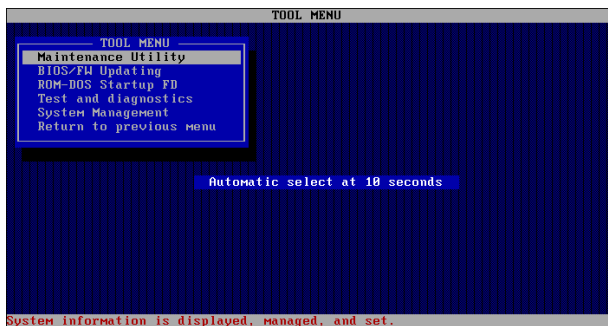
- a) Maintenance Utility
オフライン保守ユーティリティを起動します。
- b) BIOS/FW Updating
システムBIOSをアップデートします。
- c) ROM-DOS Startup FD
ROM-DOS起動FDを作成します。
- d) Test and diagnostics
システム診断を起動します。
- e) System Management
システムマネージメント機能を起動します。

③ Tool menu(Redirection mode)

本項目は、BIOSコンソールリダイレクション機能を使用して、コンソールレスにて操作する場合にのみ選択してください。



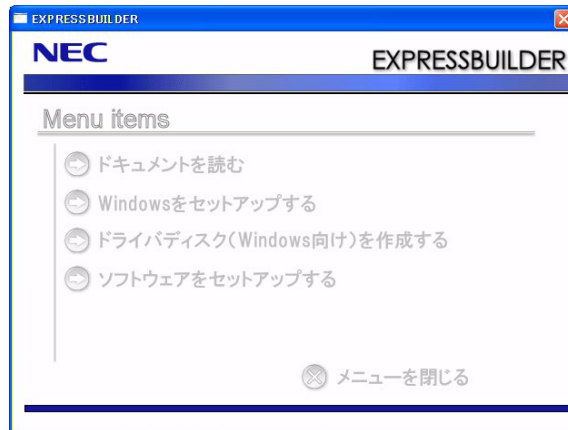
リモートKVM機能を使用しているときは、本項目ではなく②の項目を選択してください。



このメニューから起動できる機能は、②のメニューから起動できるものと同等です。

オートランで起動するメニュー

Windows2000+IE6.0、WindowsXP、Vistaまたは Windows Server 2003 が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」DVDをセットすると、オートラン機能により自動的にメニューが起動します。



セットしたタイミングによっては、自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、セットした光ディスクドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

メニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Readerがインストールされていないときは、あらかじめAdobeシステム社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしておいてください。

メニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



DVDを光ディスクドライブから取り出す前に、メニューおよびメニューから起動したオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDER のシームレスセットアップで使用する「パラメータファイル」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDER とExpressPicnic で作成したパラメータファイルを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOS のインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「パラメータファイル」を作成して、EXPRESSBUILDER からセットアップすることをお勧めします。

フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USB フロッピーディスクドライブをご用意ください。



Windows Server 2003 用の「パラメータファイル」のみ作成できます。Windows Server 2003 x64 Editions 用 / Linux 用のパラメータファイルは作成できません。



「パラメータファイル」がなくてもWindows Server 2003 をインストールすることはできます。また、「パラメータファイルの入ったFD」は、EXPRESSBUILDER を使ったセットアップの途中で作成または修正することもできます。

パラメータファイルの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「パラメータファイル」を作成します。以下の手順に従ってください。



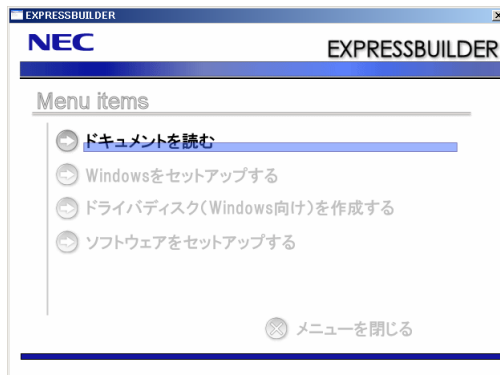
パラメータファイルの作成中は、絶対に【EXPRESSBUILDER】DVDを光ディスクドライブから取り出さないでください。



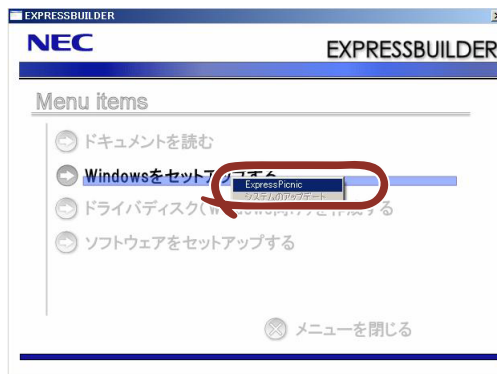
- ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。
- ExpressPicnicは次のOS上で動作します。
 - Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003
 - Windows Vista
 - Windows XP x64, Windows XP

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。

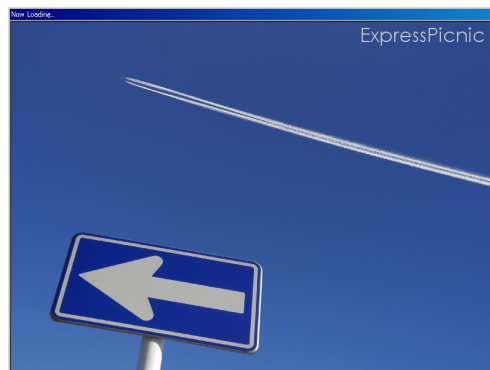
3. 画面上で右クリックするか、[Windowsをセットアップする]を左クリックする。



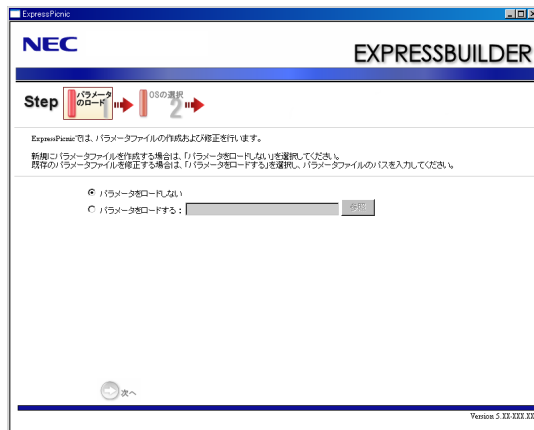
4. [ExpressPicnic]をクリックする。



ExpressPicnicウィンドウが表示されます。

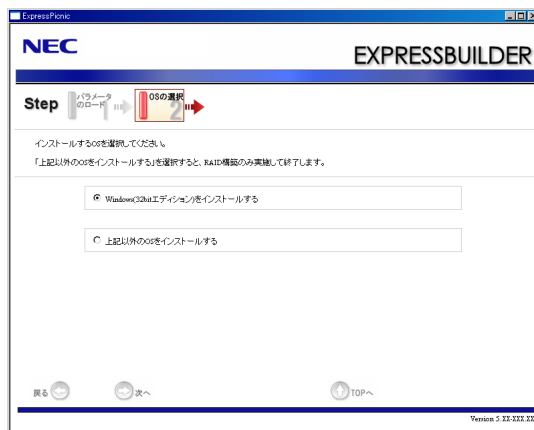


5. パラメータのロード画面が表示されたら、[パラメータをロードしない]のチェックボックスがオンになっていることを確認し[次へ]をクリックする。



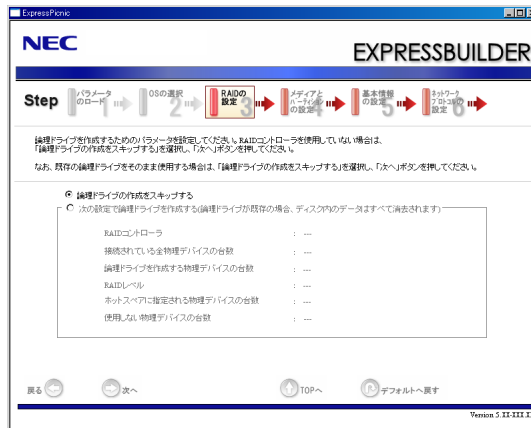
6. OS を選択する。

[Windows (32bit エディション) をインストールする] を選択して、[次へ] をクリックしてください。



7. RAID の設定をする。

[RAID の設定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] をクリックしてください。



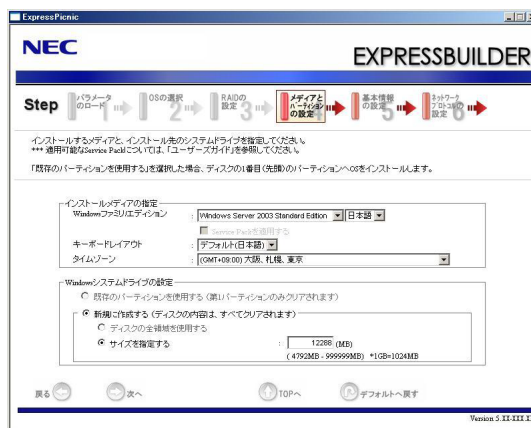
ExpressPicnicでは、[接続されている全物理デバイスの台数]はRAIDコントローラがサポートしている上限値になっています。「論理ドライブを作成する物理デバイスの台数」と「ホットスペアに指定される物理デバイスの台数」の合計が、「対象装置に接続されている全物理デバイスの台数」を超えないように注意してください。



論理ドライブの作成には、同型番の論理デバイスしか使用できません。

8. メディアとパーティションの設定をする。

[メディアとパーティションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。





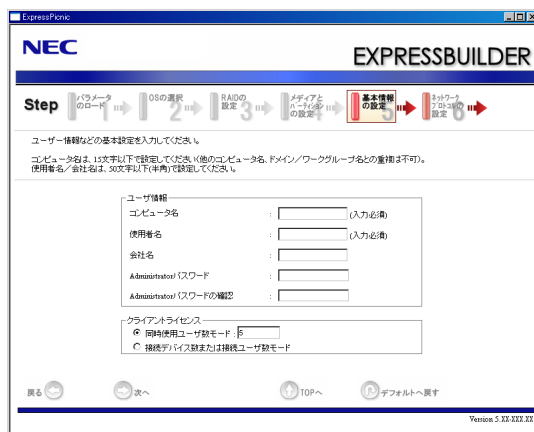
- パーティションサイズについて
 - － OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズを指定してください。(40ページ参照)
 - － 接続されているハードディスク以上の容量は指定しないでください。
 - － RAID構成で2,097,152MB(2TB)以上のパーティションは作成できません。
- 「Windows システムドライブの設定」で「新規に作成する」を選択したとき、ディスクの内容はすべてクリアされますのでご注意ください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(40ページ参照)。「Windows システムドライブの設定」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。

9. 基本情報の設定をする。

「基本情報の設定」画面が表示されます。ユーザ情報を入力して「次へ」をクリックしてください。



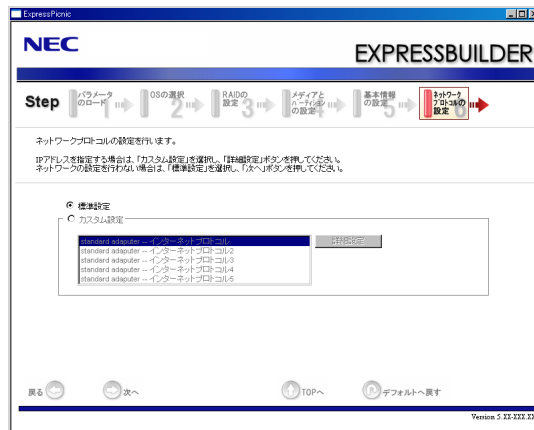
コンピュータ名および使用人名の入力は必須です。



パラメータファイルをロードした場合や、Step6以降の画面からStep5に画面を戻した場合、「Administratorパスワード」および「Administratorパスワードの確認」に値を設定していない場合でも「●●●●●●」が表示されます。

10. ネットワークプロトコルの設定をする。

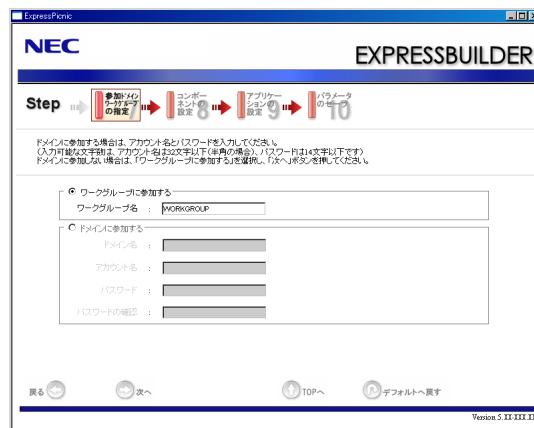
[ネットワークプロトコルの設定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] をクリックしてください。



カスタム設定での登録順は、LAN ポートの番号と一致しない場合があります。

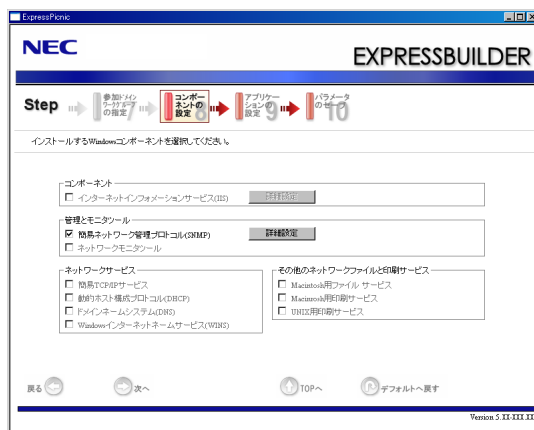
11. 参加ドメイン・ワークグループを指定する。

[参加ドメイン・ワークグループの指定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] をクリックしてください。



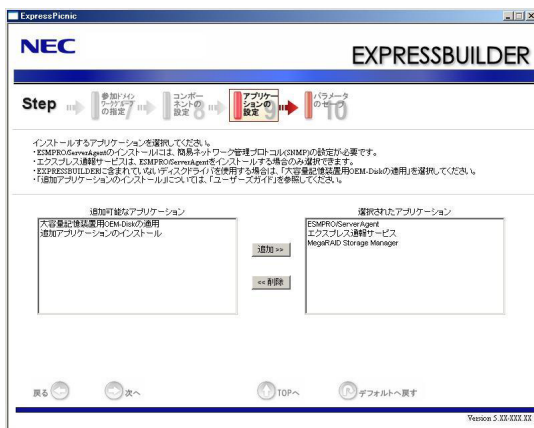
12. コンポーネントの設定をする。

[コンポーネントの設定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] をクリックしてください。



13. アプリケーションの設定をする。

[アプリケーションの設定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なアプリケーションを選択して [次へ] をクリックしてください。



「追加アプリケーションのインストール」について

「追加アプリケーションのインストール」とは、シームレスセットアップの最後にあらかじめ指定された任意のアプリケーションを自動でインストールする機能です。

詳細については、<http://www.ace.comp.nec.co.jp/product/2nd/expicnic/>の[重要事項]-[追加アプリケーションのインストールについて]を参照してください。

14. パラメータをセーブする。

「パラメータのセーブ」画面が表示されます。

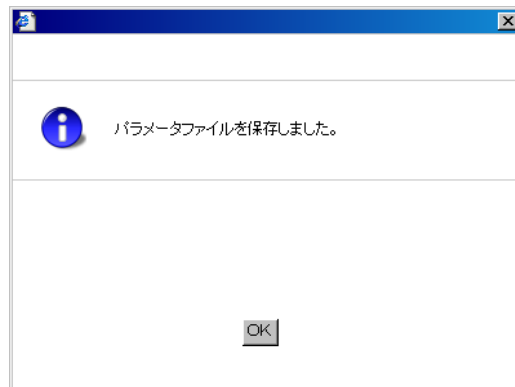
「パラメータをセーブする」を選択し、フォーマット済みフロッピーディスクをセットした後、パラメータファイルのパスをボックスへ入力し、[次へ]をクリックします。



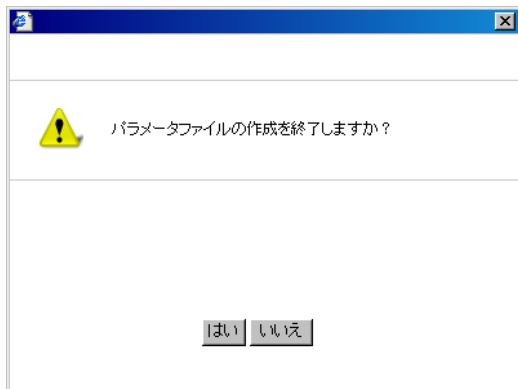
パラメータファイルのパスおよびファイル名に日本語は使用しないでください。



15. フロッピーディスクに保存する。



「パラメータファイルの入ったFD 」が作成できました。
[はい]をクリックし、パラメータファイルの作成を終了してください。



ヒント

- 既存の情報ファイル（パラメータファイル）を修正する場合は、[パラメータのロード]画面で、パラメータをロードするをクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。
- 途中で終了する場合は、画面右上の [X] をクリックしてください。

本体用バンドルソフトウェア

CPUブレードにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。「EXPRESSBUILDER」DVDからインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgentインストールガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

- **ネットワークサービスの設定**

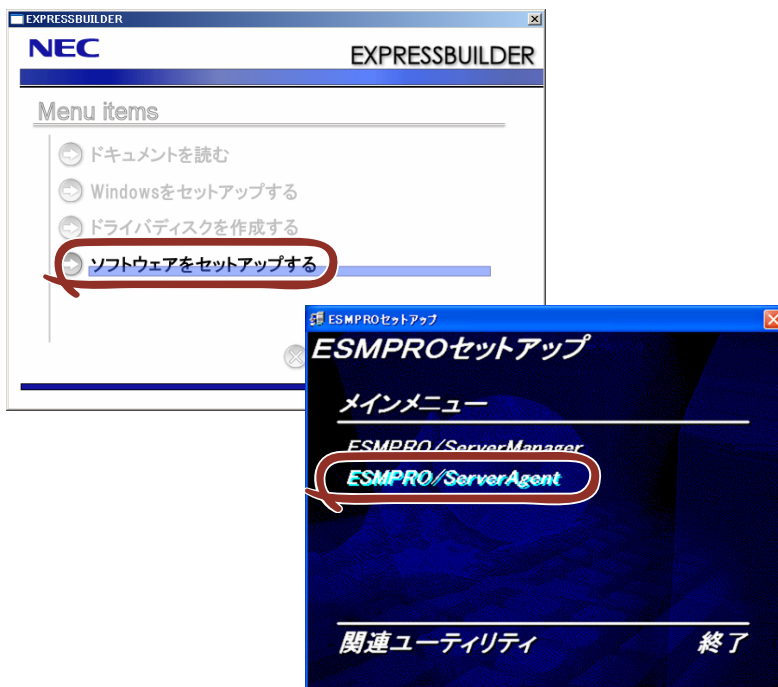
プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

- **SNMPサービスの設定**

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

本装置にインストールしたOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから「ソフトウェアのセットアップ」－「ESMPRO」－「ESMPRO/ServerAgent」の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



管理者権限のあるアカウント (administrator) でシステムにログインしてください。

ネットワーク上の光ディスクドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて
ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

「ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。」

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. 本装置を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてからインストールし直してください。

注意事項

ESMPRO/ServerAgentを使う場合には、「ESMPRO/ServerAgent インストレーションガイド」に記載されている補足事項に加えて、以下の点に注意してください。

筐体センサの監視について

ブレード収納ユニット(SIGMABLADE)に実装されるファン・電源は EMカードにより監視されます。EMカードが監視する情報は、ESMPRO/ServerManagerの エンクロージャビューアで確認できます。

ESMPRO/ServerManagerのデータビューアの[ESMPRO] - [システム環境] - [電源] はCPUブレードの電源回路の状態を表示しています。

MegaRAID Storage Manager™

MegaRAID Storage Manager(以下MSMと略記します)は、ディスクアレイコントローラの監視・管理を行うアプリケーションです。MSMを使用することで、システム運用中のアレイ保守やイベント監視による通報を行うことができます。

MSMのインストールおよび操作方法については、添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内にあるオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Managerユーザーズガイド」を参照してください。

この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にMegaRAID Storage Managerがあらかじめインストールされている場合があります。

「EXPRESSBUILDER」内にあるオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Managerユーザーズガイド」を参照し、設定してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

MSMは添付のEXPRESSBUILDER内にある自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「MegaRAID Storage Manager」を選択してください。

手動インストール（新規インストール）

手動でMSMをインストールする場合は、添付のEXPRESSBUILDER内のオンラインドキュメント「MegaRAID Storage Managerユーザーズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お問い合わせの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

CPUブレードをネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

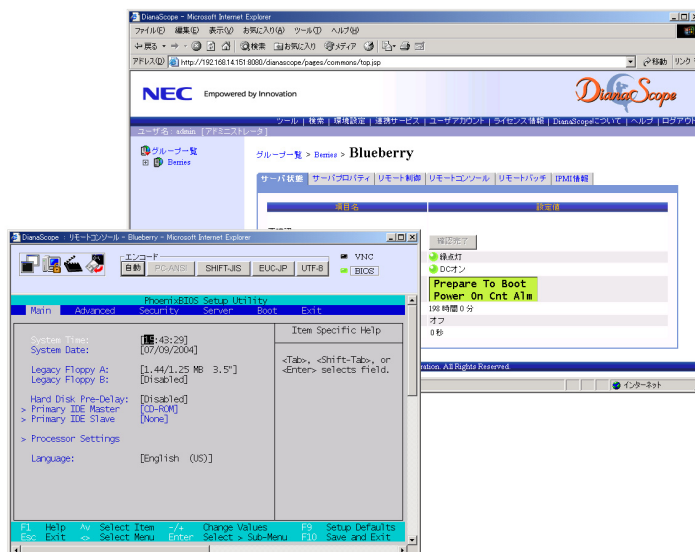
ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」を参照してください。

DianaScope

DianaScopeはExpress5800シリーズをリモート管理するためのソフトウェアです。
DianaScope の機能やインストール方法についての詳細は EXPRESSBUILDEER 内の「DianaScope オンラインドキュメント」を参照してください。



本製品をDianaScopeで管理する場合、Delay Time設定は 0秒(初期値) から変更しないでください。
CPUブレードへの電源供給開始後、電源ONを行うと各CPUブレードごとに (スロット番号-1) * 2秒 の待機時間が挿入されます。Delay Timeを0秒以外に設定した場合、待機時間が正しい長さになりません。
Delay Time設定については、DianaScopeオンラインヘルプの「サーバ」→「サーバプロパティ」→「サーバプロパティ」→「電源オプション設定」を参照してください。



本製品においてDianaScopeを使用するためにはサーバライセンスが必要です。
本製品には以下のサーバライセンスが添付されています。
— UL 1198-001 SystemGlobe DianaScope Additional Server License(1)
本製品を1台管理するためのライセンス

エクスプレス通報サービス (MG)

エクスプレス通報サービス(MG)は、エクスプレス通報サービスにおいて、EMカードからのアラートを保守センターに通報するためのプログラムです。

EMカードは、ESMPRO/ServerAgentを経由せずにESMPRO/ServerManagerにアラートを送信します。そのため、エクスプレス通報サービス(MG)はESMPRO/ServerManager側にインストールします。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービス(MG)を有効にするには、エクスプレス通報サービスと同様の手続きが必要です。詳しくは「エクスプレス通報サービス」(185ページ)を参照してください。

受信情報の設定

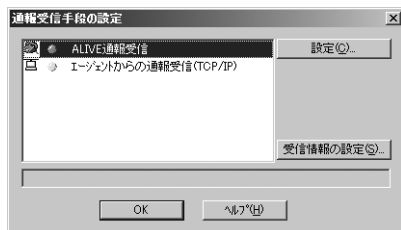
エクスプレス通報サービス(MG)でEMカードのアラートを通報するためには、まず、受信情報の設定を行う必要があります。次の手順で設定を行ってください。

- 「受信情報の設定」ツールの起動

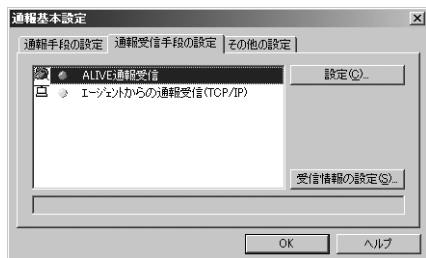
ツールは以下の手順で起動します。

1. アラートビューアを起動する。
2. アラートビューアの「ツール」メニューから「通報の設定」を選択する。

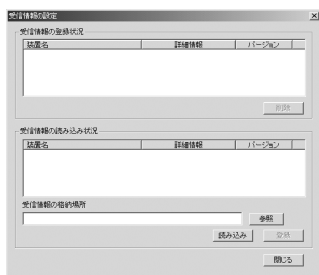
「通報受信手段の設定」画面が表示されます。



ESMPRO/ServerAgent、またはWebSAM AlertManagerがインストールされている環境では、通報受信手段の設定画面ではなく、アラートマネージャツールが起動します。その場合は、アラートマネージャツールの「設定」メニューから「通報基本設定」を選択して「通報受信手段の設定」画面を表示させてください。



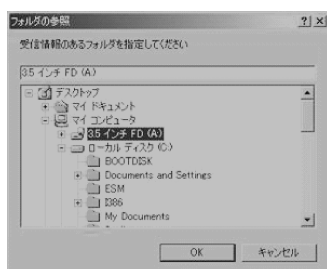
3. 「受信情報の設定」ボタンをクリックして受信情報の設定ツールを起動する。



● 受信情報の格納場所の設定

1. 「受信情報の格納場所」エディットボックスに直接格納場所を入力するか、または「受信情報の設定」画面の「参照」ボタンを押す。

「参照」ボタンを押すと以下に示す「フォルダの参照」画面を表示します。



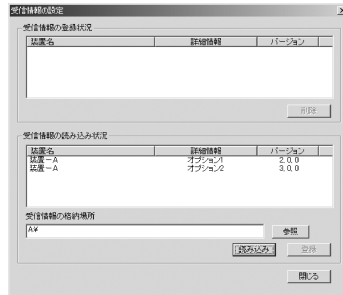
2. 受信情報のある場所を指定して「OK」を押す。

以下の画面のように「受信情報の格納場所」に指定した場所が表示されます。



● 受信情報の読み込み

「読み込み」ボタンを押すことにより、「受信情報の格納場所」から受信情報が読み込まれます。読み込まれた情報は、「受信情報の読み込み状況」リストビューに表示されます。何も表示されない場合は、登録可能な情報が「受信情報の格納場所」にない場合です。



● 登録操作

「受信情報の読み込み状況」の項目を確認し、登録が必要なものを選択し、「登録」ボタンを押すことで登録が行えます。登録が完了すると、画面は以下のようになります。



● 削除操作

「受信情報の登録状況」に表示している項目を選択して、「削除」ボタンを押すことにより登録の削除が行えます。

● 終了

「閉じる」ボタンを押すと「受信情報の設定」ツールは終了します。

エクスプレス通報サービス(MG)のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。